

# 高退教

## 岡山

第 161 号

2020 年 8 月

岡山県高校・障害児学校  
退職教職員の会

〒703-8258

岡山市中区西川原255番地

岡山県教育会ビル3F 岡山高教組気付

TEL (086)272-2245

FAX (086)272-2242

### 目 次

#### コロナに教えられたもの

「新しい生活様式」あれこれ…………… 会 長 萱 栄次 1

憲法とともに歩む人生（その1補遺）前編…………… 岡山支部 小林軍治 2

#### 元気いただきました！！

～祝岡山高退教結成 40 周年記念号刊行～…………… 旭東支部 岡崎秀穂 3

2020 年定期総会 返信ハガキの紹介…………… 事務局 5

#### 2019 年秋、チベット・ネパールで思った

ことを忘れないうちに…（前編）…………… 岡山支部 佐藤静雄 12

編集後記…………… 編集部 15

# コロナに教えられたもの

## 「新しい生活様式」あれこれ

会長 萱 栄次

現在、新型コロナの問題が連日マスコミで報道されています。新聞にも各県の感染者数が掲載され、不安な気持ちが増幅されるばかりです。

もちろんこれは日本だけでなく地球規模の状況であり、その対策が世界各国の最大の課題となっています。

そして、「新しい生活様式」なるものが、私たちの日常生活での常識となりつつあります。「マスク」に「手洗い」、人の集まる施設には、入り口のところに必ず「消毒液」が置かれています。私は、手指だけでなく腕まで消毒をするのですが、これは時々見た人に笑われてしまいます。

こうした「新しい生活様式」は感染防止対策として大変重要であることは認めますが、私はさらに、別の要素を重視した「新しい生活様式」が必要ではないかと思っています。

この30年間で、少なくとも30の感染症が新しく発生したと言われています。今回のコロナ問題もそうですが、動物に由来する感染症の主な要因は、森林破壊により生じた「新たな病原体との接触」や「自然との調和を欠いた農業や畜産の拡大」、「病原体を媒介拡散させる野生動物の取引」などが指摘されています。

この自然環境と人間生活との関係は 極めて重要だと考えられます。私たちは人との共同生活とともに、自然との共同生活をしているのです。

残念ではありますが、今の社会生活の中の中核的基準は「利潤追求」そのものです。そして、その利潤追求のためには、生態系の破壊さえためらわないというのが私たちの今の生活にほかなりません。

現在、地球温暖化対策の重要性が叫ばれるようになりましたが、これも利潤追求が招いたものに相違ありません。地球温暖化が既に危険領域に達していることは誰の目にも明らかで、私たちの学生時代には 夏休み中に 30° を超える日は数日しかありませんでしたが、今は毎日です。命の危機を感じさせるレベルなのです。命の危機を感じさせるものは、コロナだけではないということです。

したがって、今後私たちに求められるのは、こうした生活基準の変革につながるものになるのではないのでしょうか。

どんな「新しい生活様式」になるのかは、まだ明確にはなりません。今政府が推奨しているようなものとは次元の違うものにならないければ、本質的な危機の回避にはつながらないのです。新型コロナが私たちに教えてくれているものは実はこういうことではないかと思う次第です。

人類がコロナ問題を克服することを確信し、コロナ後の世界の変革を予感しつつ筆をおきます。

## 憲法とともに歩む人生（その1 補遺）前編

岡山支部 小林軍治

2020年7月発行の岡山高退教結成40周年記念号に「憲法とともに歩む人生（その1）」と題して、「誕生から勝山高校時代まで」を書いたが、そこで書き残したこと三点を追加する。

### 「9・30」実力行使に参加

1969年（昭和44年）6月10日、岡山県教育委員会は校長・教頭の一号アップを現場に下ろした。これを知った組合員は”前代未聞の差別昇給”として、怒りに燃え、いわゆる「9・30」実力行使を敢行した。この間、差別昇給を撤回し全教職員の一号アップを求めて、延べ40回に及ぶ大動員、旭川河川敷を埋め尽くした一万人集会、デモ行進による県民へのアピールなど多彩な行動を展開した。

高教組は9月20日に臨時大会を開き「9月30日には早朝30分（最低20分）勤務時間に食い込む校外での集会を行うこと」を決めた。9月29日から30日にかけての徹夜交渉でも満足な回答が得られず、ついに午前3時30分に決裂した。全県下では16分会212人が実力行使に参加し、戒告・減給処分を受けた。

勝山高校分会でも、放課後数回にわたって討議した。時には夜8時を過ぎることもあった。「要求は理解できるが、ストはどうも。」「生徒に民主教育で差別はいけないと言ってきた。行動で示したい。」など様々な意見が出た。結論としては「できるだけ校外の集会に参加する。勤務時間に食い込む人、食い込まない人、いずれも分会の行動として認める。」と決めた。私を含む四人が戒告処分を受けた。

この行動は、憲法28条の「勤労者の団結権（資料1）」で認められたもので、なんら処分されるべきことではない。

当時の私は、「差別昇給は許せない」と怒り心頭に発し、ストに参加して「ヤッタ」という気持ちであった。今思えば、もっと多くの分会員に行動の正当性を訴え、共に行動できる人々を増やす努力をすべきであったし、自分の気持ちを満足させることに傾きすぎていたのではないかという反省がある。

いずれにせよこの戦いは1967年の「10・26」とともに、岡山高教組が真に自らの生活と生きる権利を守る労働組合へと変化する契機となった。

### 座った卒業式

この件は、勝山高校新聞74号（1970年の7月18日発行）の一部抜粋をまじえて紹介する。

この日は朝から吹雪に見舞われた。当日、三年生の有志が「我々は戦争は嫌だ。軍国主義を復活させる君が代をうたうまい。うたう時は着席しよう。座るのは君だけではない。仲間がいる。」などと書かれたビラをまいた。

式の参加者は、三年生とその保護者、在校生はクラス代表5～6人、自由参加の生徒少数であった。起立に続いて君が代斉唱のとき、会場の所々で、約50人の生徒・先生2人・保護者1人が着席した。

一般生徒の反応は、「分かる気がする。」という生徒もいたが、多くは「一旦決めたことなら歌うべきだ。やるにも方法があった。クラスでもっと討議するとか。それでないと式を乱すものとしか考えられない。」などであった。

新聞部の見解では、

\*\*\*\*

卒業式は、私達が人間として、高校を卒業し社会に出るけじめを与えられる、それを受け入れ、感謝や喜びの気持ちか、心から湧き上がってくるものである。

今回の事態の原因として次の二点をあげられる。

一つは、祝辞、送辞、答辞が美辞麗句で心に残らない。

二つは、日頃の生活において、生徒と先生の心の触れ合い、対話、互いの信頼が欠けていた。

最後に、本来の卒業式は、「生徒と先生が、共に盛り上げてゆくものであって、生徒が式を創造することを重視するような形を考えては、

\*\*\*\*

と述べられている。

私は「座った先生」の一人であるが、事前に三年生有志と話し合いながら、職員会議では、君が代の歴史的な経緯や役割など資料を用意して十分な議論をしていなかった。たいへんな覚悟で座った生徒の気持ちをもっと考えるべきであった。この行動は君が代の問題点を多くの生徒に知らせる契機にはなったが、「式を乱した」との指摘は、胸に刺さった。

その後の君が代への対応については、備南高校時代の項で述べる。【つづく】

## 元気いただきました！！

～祝 岡山高退教結成 40 周年記念号刊行～

旭東支部 岡崎秀穂

新型コロナウイルスにふりまわされ、予定も行動も制限されマスク着用しての日々が続いている。そんな7月の夕方、ポストに届いた一冊を一気に読み終え、藤原洋平先生の携帯にかけた。読みながら飲んだビールの勢いもあったが、感動を伝えたかった。



岡山高尾教の歩みにはじまり、職場をともしたなつかしい先生方の近況や、現職時代の取り組み・回想が綴られて、読んでいるうちに心が元気になったのだ。

何度か参加させていただいた「自然歴史探訪」も事前の調査に始まり当日の細かい配慮。計画と実際の事前調査が大切なことを再確認した。「岡山高尾教作品展」も何回か訪れ、先生方の絵や写真などの取り組み継続に驚かされた。第二章岡山高尾教40周年に寄せてでは高尾組を牽引された吉永先生高垣先生田中博先生のご苦勞やフリースペースあかねにつながる取り組みが書かれていた。続いて難波欽子先生のお孫さんの成長。垂井先生の県北の暮らし報告。小林軍治先生の教師生活に納得し、今もご自分の生き方を継続されている姿に頭が下がる思いであった。

公民館勤務の私は、小林先生をはじめ徳方先生や磯部先生や青木先生など先輩や同年代の方々によく講師をお願いする。みなさんご自分の思いをしっかりと伝えてくださる。ありがたいことである。また、新採用の頃新見で一緒した山本浩先生の「山本農園」の名刺はいただいていたものの、重機や太陽光発電で農園を続けながら、私と同じ前立腺癌になっていたとは知らなかった。私も同じ前立腺癌で骨やリンパに癌が転移していたらとの恐怖はしばらくの間死と向き合うことになった。まあ今でも生きているので山本先生のポジティブに前向きな毎日を送っていることはよかったと心底思う。

第3章は、みなさん本当に『論語』の中にたびたび出る「仁」のように、自分本位ではなく他者のことを考え行動されていることを知った。あかねも資金不足、余裕ができれば少額でもお届けするつもりだ。なにしろ徳方先生は高校の恩師であり、同じ学校に勤務する縁にも恵まれ、今も気にかけていただいている。あかねも次の世代に受け継がれているが、お金は現実を左右するので、あったほうがいと今頃気が付いている残念な自分があるので、納得のいく支援をしたい。もちろん私ひとりではどうにもならないことも重々承知。世の中には必要なことなのに行政が支援しないという現実が、あちこちにあることもやっとわかりだした。みんなでどうにかしなければと気づく、七十歳に今少しで届く私である。

これから納得のいく生き方をしていきたいと思うが、まずは中西孝先生の書かれている「お互いに健康に留意しながら、新しい平和で暮らしやすい社会の実現をめざして、手を取り合って歩んでいきましょう」に同意しつつ、コロナ収束を願うのである。ともあれみなさんの真摯な生き方にとても元気をいただいた。

(岡山市立上南公民館勤務)

## 2020年定期総会 返信ハガキの紹介

〈岡山支部〉

青山 一郎

コロナウィルスに負けまいと毎日規則正しい生活を送っています。しかし、やる気や根気は衰え、年はとりたくないものだと痛感しています。

赤木 洋子

脳梗塞の後遺症に加え、パーキンソン病を発症、少し不自由なくらしをしています。

医師からは余命10年と言われていますが、元気にしています。月数回の通院と、たくさんの薬に支えられています。目もかすみ、耳も遠くなり、人との交流が大変です。

安東 誠

40周年記念行事、参加させていただきたいと思っていましたので残念です。しかし、今後の状況をみながらとりくみを検討されるようですので期待しています。

40周年記念誌、楽しみにしています。高退教の一層の発展を願っています。

板津 定邦

日本ではかつて天然痘やコレラが大流行し、養和、天明、元禄と大飢饉が大勢の犠牲者を生み、その都度政治が変わりました。西欧ではペストの蔓延により、人口の1/3が減ったと言われています。令和の今、新型コロナの大流行で我々の心は鬱の極限、加えて腐りきった安倍政権、何が責任を感じますですか？何が国民に寄り添い丁寧に説明しますですか？国民を愚弄するのもいいかげんにせい!!怒髪天を衝く思い。

鴨長明も、大塩平八郎もボッカチオも同じ気持ちでいたのではないのでしょうか？とにかく安倍追求の手を緩めるな！安倍を変えないと日本、否世界は変わらない！そういう日本でありたい。

植木 五郎

総会議案(3件)に全面的に賛成です。特に資料①～⑨大変参考になりました。

役員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございます。

大西 淑江

あの血税、無駄遣い内閣に10兆円を委ねることが心配でなりません。どうせまた衆議院選で、2%の消費税を減額することの信を問うとか言い出しかねない。いい加減、正体を見破ろう！

小川 澄雄

コロナのせいで様々な行事が中止になってしまいました。古文書を読む会でも例会が4カ月ほどできていません。その間も会員に宿題の課題文書を郵送、提出された答案の添削作業を続けています。遅れて3回分をまとめて提出する人もあり、なかなか大変です。

町内会役員からは解放され、ホッとしています。

小合 真由美

今は、非常勤講師の仕事もなく、暇にしています。

河原 和子

年令を感じるが多くなりました。人の名前が出てこない、物をよく探す、困った困ったと思っていました。先日運

転免許の高齢者講習会に行ったのですが、担当者が生年月日を見て「ほんとうにこの年？若い！10年の差があるよ」なんて言われうれしくなっていました。元気出そう！と思いました。

### 金田 光代

テレビ・新聞のニュースはコロナウィルスのことばかり、少しは明るいニュースをのせて欲しい。体力をつけるため、毎日ラジオ体操をしたり、ウォーキングをしています。少々暑くなってきたので涼しい時歩きます。知人と話しながら…

### 小林 軍治

最近思うこと

- ①自動車から自転車への移行を真剣に考えたい。
- ②中国政府の動向が気になっている。真の日中友好は、中国人民との草の根の交流である。誕生の地(林口県龍爪地区)の住民との交流は、今後も続けたい。
- ③安倍さんの改憲執念に負けるわけにはいかない。憲法人生をかけて、9条を守らせ、生かす運動を続けたい。

### 佐藤 幸一

非常勤講師と両親の介護に忙しい毎日を送っています。

### 定広 輝海

自宅近くにできた「もみの木」保育園の食材づくりに日々追われています。試行錯誤しながら気楽に実践しています。また日本将棋連盟公認の普及指導員としての活動も6月より少しずつ復活してきました(4月5月はコロナの影響でほぼ活動停止の状態でした)。4世代8人家族(同居)で苦しいことも多いですが充実した日々を送っています。

### 島田 宏恵

待ち望んでいた春もコロナのせいで未消化のまま梅雨に入った。行事も旅行も趣味のサークルもボランティアもすべて中止。身体と気持ちを持って余し気味の日々。でも失業した人、収入の減った人、医療に従事している人、休校中の子どもたちや家族等、もっともっと大変な人が大勢いることに心を痛め、一日も早い終息を願っている。「国民の命と暮らしを守る」ことこそが政治の使命と痛

感した。

### 白神 恵子

今春退職いたしました。夫と共に高退教の仲間です。事務局役員(案)になつたお名前を見つけて嬉しいです。

実家の老々介護を支えるべく、再任用を選ばなかったのですが、コロナ禍で5月いっぱい県をまたぐ移動ストップ。朝晩、実家に電話とFAXをしていました。6月から実家との往復を始めてちょっぴり親孝行できています。

### 高岡 悦子

高退教の活動に取り組んでくださる方々(特に役員のみなさん)に感謝しています。親の介護を通して“老いていくこと”を学んでいます。

### 高木 典義

町内会で忙しいです。

国道180号線道路拡張問題、JR桃太郎線の三門附近を路面電車化、町内福祉施設のエレベーター設置など問題が山積んでいます。

### 武井 靖

左足が変形性膝関節症になり、少し不自由になりました。

## 津嶋 宣夫

会計監査の津嶋宣夫です。活字があれば「嶋」と「宣」を訂正ください。なければ今のままでけっこうです。

\*申し訳ありません…  
事務局

## 中村 清子

新型コロナのおかげで、予定もすべてキャンセル、図書館も閉まっているので、家にある本を引っ張り出して読む毎日です。若い頃に詠んだ本をこの年になって読み直すと、新しい発見があってとても新鮮でおもしろいです。

もうひとつ、古いハンカチや余り布で布マスクを作るのにはまっています。

新型コロナが、人間社会の脆弱さをあばき、弱いところにしわよせがきている気がします。一日も早くコロナが終息し、平穏な世界になりますよう祈っています。

## 難波 欽子

コロナ禍に見舞われて数カ月。やっとなにぶん私でも考えて自分の手足で進まないといけないとわかりかけてきました。高退教の皆さんの知恵や力を集めて欲しいです。

自然体験リーダーズクラブの活動・真向法体操の普及に明るくありたいと思います。

## 中山 実典

「3密」とは無縁。戸外で元気に農作業の日々です。総会があれば言うつもりでしたが、毎回「高退教作品展」に出している下手な写真、互助組合の「教職員美術展」にも出してみました。すると、参加賞として全作品が冊子に載せられて返ってくることにわかりました。皆様もぜひ出展してみてください。

## 花田 千春

夫の一周忌もコロナでできず、今は母の介護に実家に通っています。鳥の声や庭の草木にいやされています。

国会中継もよくみえます。いつでも見られるユーチューブ便利ですね。何でもネットを信じてしまう子どもたち、不安です。

## 美甘 晃

コロナで、楽しみにしていた予定や、イベント、コンサートがすべてふきとんでしまいました。しかし、今、孫と、非常勤で

行っている玉野光南の生徒たちに元気をもらっています。このまま乗りきりたいものです！

## 森 達朗

コロナ騒ぎで大変ですが、私は田舎に引っ込んでいるのと、もともと旅行等が好きでないので不自由は感じていません。退職後のために趣味の映画（DVD）を2000本位と漫画を1500冊位集めていたのが今役立っています。

## 横田 春美

歳を重ねると（90歳）予期せぬことが発生するものだ。このところ歩行が困難とり、「ころばぬ先の杖」とか、安全のために車椅子を使用しての老人ホームへ出入りが始まった。お互いは十人十色で老いて見る、さまざまなホームでの利用者の出来事を。

## 横田 廣太郎

新型コロナ危機の中、役員の皆様には大変なご苦勞をいただき、議案書を作成していただきました。もっともな内容で支持いたします。

今年に入り、自宅にいることが多いので、写真



の整理や各種書類の整理をすすめています。不要なものが多く、時間がかかります。皆さんはどのようにおすごしでしょうか。

### 米山 伯治

元気で、動いています。また「史跡めぐり」の再開を期待しています。お世話になります。

### 和田 茂

この4月から非常勤の勤務も離れ、フリーの身です。母の介護をしながら、体力の維持と、これまで忙しくてできなかったことにゆっくりとりくむのが日課です。

### 〈備南支部〉

### 石井 貴美子

県立の特別支援学校に再任用、短時間勤務しています。

コロナの影響で、今年の夏休みは8月中旬に2週間ということになっており、とても厳しい夏になりそうです。

### 石川 昌宏

まだ非常勤講師をしています。

### 岡田 純爾

役員の皆様のご奉仕に

感謝申し上げます。

私は今年3月末、児島看護専修学校のパート勤務を辞し、「Stay Home」しています。「新型コロナ」は人類の「経済優先」「自国主義」への警告ではないでしょうか。日本人も裸の王様「アベ」の正体に気づくべきです。

皆様のご健勝をお祈りします。

### 岡本 和子

高退教に入会させていただきいろいろと勉強させていただきありがとうございました。私は大正12年生まれで97歳になります。この度退会させていただきます。ありがとうございました。元気でデイケアに週3回行っております。

### 鴨川 恵美子

デイケア(週2回)から帰宅。前日届いた議案書を、日が暮れるまで、久しぶりに難解な文章を読了。先日は米寿を迎え、良くコロナの時代まで生きたものだと思いを炊いて、世話になっている妹たちに配りました。体調はまあまあです。趣味として残ったのは、ピアノの練習だけ。夕方電気釜にスイッチを入れると、身体

は自然にピアノの前に。以前に、発表会で演奏した2曲と、新しい2曲の4曲を、30分以上、ほとんど毎日欠かすことなく脳トレのつもりで頑張っています。コロナ給付金でスマホを購入しようと思っています。友人に「パソコンと固定電話があるあなたにスマホは必要ない」と叱られました。高退教の人たち、ご助言を。

### 萱 栄次

ボランティア、ボランティアで連日出かけています。健康への路と思って頑張っています。

### 小坂 卓史

返信が大変遅くなり申し訳ありません。今後ともよろしく願いいたします。

### 諏訪 正光

お世話になります。

### 濱越 唯利

皆様、お元気でご活躍の事と拝察致します。

私事、年金者組合をはじめ、いろんな場所へアコーデオンをかかえて、援助演奏指導、妻はコーラスの代表者で忙しく、2人が「今日は何もないネー」という日は多くあ

りません。しかし、元気で活動していますのでご安心の程を…

### 平松 芳子

日頃は大変お世話になり感謝しています。私こと歳を重ねるごとにあれこれ不自由さはありますが、何とか元気に送日しております。夫の看護にも慣れました。趣味の山野草を育てながら自然にかかわっていきたくと思っています。

“すこやかに今日も生きたし雨あがる朝のあじさい冴えざえと青”

### 藤原 斌

コロナの影響で高退教40周年記念行事を延期せざるを得なかったこと、大変残念です。

源氏物語の講座(3会場)の講師、玉野の図書館での古典講座、地域の老人会の会長などやっていますが、いずれもコロナの影響を受けています。

児島の古典講座(現在の源氏物語講座)の50周年記念に、10月末、大阪から講師を迎えて記念講演会を予定していましたが、これもコロナ対策で入場数の制限が条件だと言われ、来年に延期することにしました。

政府のコロナ対応は腹の立つことばかりです。

### 本田 義武

会員とは名ばかり、活動にも参加せず申し訳なく思っています。会員であることに、何となく人とのつながりを感じるもので…

まだ時々、学校で生徒に遊んでもらっています。でも、古典はあまり好まれないようです。私が…かな?

### 三宅 ちはる

この春はマスクをたくさん縫いました。あちこちに届けました。「安倍のマスク」より好評でした。まだ届いていない人もいますが(6/8)

### 山口 京子

いつもお世話になり、ありがとうございます。議案書の表紙に、小豆島へ行った時のなつかしい写真があり、またみなさん方と旅行に行けたらいいですね。

コロナ禍の中でいろいろな事が見えてきました。終息後の世界がより良いものとなりますように。

### 横井 善太郎

再任用で水島工業高校

の情報技術科で教えています。2年生の担任です。

### 依田 清

新型コロナウイルスのため、直にコミュニケーション活動がとれないもどかしさに困っています。ワクチン開発により一日も早く、普通の生活を取り戻したいものです。

### 〈旭東支部〉

### 荒木 敏和

巢ごもり、ときどきフィットネス、バイク。

### 池上 貴久雄

なつかしいお便りありがとうございます。私と同年代の役員の方々もおられますが、皆様の御奮闘に敬意と感謝を申し上げます。

難聴で身体障害者手帳を持つ身となり、もうろくが進んでいるようです。

子どもたちの教育、未来が明るく開けることを一生かけて願いたいと思っています。

### 井上 進夫

自粛生活も7月の総会頃には終わるだろうと期待していましたが、残念です。

## 岸本 幹雄

今年3月で再任用フルタイムが終了し、4月からは年金生活スタートしました。ただし週4時間の非常勤講師(東岡工)をしています。また野菜づくりやブドウづくりの農作業をしています。3月23日に長女に初孫が産まれて「じいじ」になりました。コロナの影響でなかなか会えません…。

## 高垣 章二

40周年おめでとうございます。祝賀会の中止は残念ですが、コロナ終息後、代替りの集会を計画してくれないかな?というのも、〈運営安定資金〉(156万余)は毎年次年度に繰り越されています。この資金は、会費制度の変更にともない、会費収入の大巾減の懸念から、当時の会員の方々に、財源安定化のためのカンパをお願いしてできた会計で、これまで支出することなく繰り越されてきたものです。カンパされた会員の多くの方が、すでに鬼籍に入られています。という意味からも何時までも残してほしくない会計です。意あるところをお汲み取り下さい。

## 辰田 芳雄

コロナ禍で江戸に行けなくなりましたが、鬼平犯科帳の八百八橋を江戸切絵図で探し、ストリートビューで街歩きをしています。池波正太郎は切絵図とにらめっこで、盗人宿を決めていたと思います。浅草の鳥越町近くの「松平内匠頭」の上屋敷は、備前池田氏の支藩「鴨方藩」邸です。ここにいた藩士野村尚房の文学活動に注目しています。

## 三宅 通明

役員の皆様には大変お世話になります。毎日元気に気ままに過ごしております。

## 吉永 隆光

初代副会長の久常氏の音頭「正義の士の集まりに乾杯」で始まった結成20周年祝賀会からもう20年、今回コロナ防止のため40周年祝賀会が中止となり残念です。議案に賛成、アベ政治を許さず活動を強めましょう。小生85歳と半ば、体調不良ではありますが、皆さんとともにがんばりたいと思います。

## 〈備西支部〉

### 浅野 秀夫

コロナの影響で、地区の公民館講座、その他のイベントが中止になったのは残念です。

### 岡田 潤

役員の皆様には本当にご苦労さまです。お世話になります。資料1~6おもしろく拝読しました。40周年記念誌編集作業に携わった方々にもこころから御礼申し上げます。横田滋様のご逝去ところが痛みます。また、大変な夏になりそうです。会員の皆様方のご健康をお祈りいたします。

### 岡本 チェ

私の生活はコロナの前から変わらずです。コロナ後に世の中がどう変わるか興味があります。前例にとられることなく仕事のし方が変われることを期待しています。家庭での家事を女性に背負わせていることに皆が気付くことも大切です。しっかり見張っていきましょう。

### 木村 信行

非常勤講師をさせてもらいながら、なんとか生きています。

## 武田 芳紀

「新型コロナウイルス」感染という未曾有の出来事に直面し、2, 3月から5月まで、ほとんどのイベントもキャンセル！そのおかげで(?)家にいる時間が増え、これまでにたまりにたまった資料・書籍・グッズなどの整理に手を付けました(未完)。それと、非常勤で勤めている理科大での講義は、ZOOMというアプリを使ったオンライン授業…初めての経験でとまどいましたが、新しい発見もいろいろ！〈ピンチをチャンスにかえる〉ことになったかも！？それにしても記念集會が流れたのは残念！

## 西 功

コロナのため、何もかも中止になり、おとなしくしています。早い終息を願っています。終息したらどこか旅にでもと思っています。

## 西野 教子

一日一日を頑張っています。

## 西牧 利典

日本の財政、経済の破綻がますます現実味をおびてきました。今こそ、経

済財政について語る必要がある、と感じます。

## 三宅 幸良

「自然歴史探訪」の継続実施検討に賛成します。

〈備北支部〉

## 相木 トシ子

いつもお世話になります。

田舎の草刈りや草焼きが私にとって大切な仕事になっており、体調の管理や健康状態を見る基本になっています。できるだけ長く続けたいと願っているこの頃です。

## 石井 正美

春の淡路島一周は中止、夏の北アルプスも断念。でも庭のアジサイの花が元気づけてくれています。

## 石井 美鶴

お世話になります。資料4…よかったです。

草取りの日々です。

## 岡本 忠

出しても意味がないでしょうが、お詫びのつもりで差し出します。申しわけありませんでした。  
\*ハガキが返ってくるのは嬉しいです。(事務局)

## 加百 靖典

お世話になります。

## 竹井 久義

今年は非常勤講師をしています。

## 西村 毅

役員の皆様何かとお世話になります。今は新型コロナウイルスが世界中に脅威にさらされていますが、早く終息し、日常が戻ることを望むばかりです。今非常勤講師として勤務していますが、年代が余りにも離れすぎると、新人類の生徒だと日々実感しています。

## 福本 光子

うっかりして遅れて申し訳ございません。よろしく願いいたします。

## 逸見 健治

“相変わらずのわが国の舵取り役”日本どうなる?!心配です!

## 山本 浩

相変わらず自然と戯れ、マスクとは縁のない毎日を送っています。

早く皆とワイワイ、ガヤガヤ語らうことのできる日常が戻ってきてほしいものです。

〈美作支部〉

## 産賀 俊治

議案書 p10 (8) の⑤に

二重線部を追加してはどうでしょう？

「高退教ホームページ」やFacebookの「高退教グループ」を充実させます。

\*検討します。(事務局)

### 垂井 一新

今年の稲作りは、苗作りに失敗。田植どき、いつもうまく植えら四条植えが三条になったり、時には二条になったり。根のはり方が不十分で苗送りがつまってしまっていて困ってしまった。それでも近所の人「間隔が空いて日がさして反ってよいできかも」となぐさめてくれますが、収穫するまで

気をもませます。

### 友直 久徳

元気に週2日の仕事と郵便での将棋やメール対局を楽しむ日本郵便将棋連盟に加入し、毎日充実した生活を送っています。仕事では竹炭と竹酢液を知的障害のある人と一緒に作り販売を続けています。

竹炭は床下に、冷蔵庫に、金魚鉢にと入れ、アルカリイオンを出すことを利用して健康に役立っています。竹酢液は畑の作物づくりに、特にモグラ防止にと使われています。よろしかったらお電話ください。

### 春名 恵吉

いつもお世話になってます。

### 山本 豊

新型コロナウイルス肺炎は、今後の生活様式が変わる契機になるでしょう。経済も長く停滞し、我々年金生活者も生活が苦しくなることは確実でしょう。次の世代に、少しでも明るい希望がもてる時が来るのを切に願います。

他72名の方からの返信がありました。ありがとうございました。

## 2019年秋、チベット・ネパールで思った

### ことを忘れないうちに… (前編)

岡山支部 佐藤静雄

中国建国70周年、チベット蜂起60周年の2019年秋に旅した時に思った事を少し書き残してみる事にする。山以外の事を。

関空からフライトし上海浦東国際空港に着き、30年前にお世話になったAさんに会う事が出来た。上海は何度か来ているが、かつての虹橋空港で下りた時代が懐かしい。空港近くのトイレは、大便の折壁がなく隣の人顔を見ながらであった。空港の売店で買い物しようと店員の人に話かけるも昼休みとて全くとりあってもくれない事もあった。いろいろ、びっくりする事も多かったが、そう嫌な思いはない。しかし、今回の旅では何か違う気持ちも。なぜだろうか。Aさんは、この30年日本の留学を経て上海で仕事に就いた。西寧までのフライトの間少し話す事が出来た。彼は、香港の状況を知っているのだろうか。深圳の遠くからやって来た農民工の実態を知っているのだろうか。そして、ウイグルの人達の事も。会話は、もっぱらお互いの家庭、仕

事、お互いの知人の話で終始した。気にし過ぎかもしれないかもしれないが、どこから会話が聞かれているのかもしれない。すでに、私の顔認証に両手すべての指紋は当局の管理下にある。十数億人の中から私の動向を見つける事も可能である。凄い管理社会。こうした、管理は犯罪が少なくなったとする中国人も多いと聞くが。中国の将来を語るAさんの会話の端々、顔に何か自国に対して不信と諦めが見えたのは私の思い過ごしだったろうか。新疆産の干し葡萄を持たせてくれた。美味しく芳香たる葡萄であった。

西寧へのフライト便は、なぜか説明もなく遅延した。搭乗予定の後便はフライトしても、なかなか乗れない。結局フライトしたのは、日が変わる前であった。ゆえ、西寧着いたのは、3時半頃であった。西寧では、未明2時から5時まで観光バスを動かす事が出来ないとの事である。他の都市も同様かは分からないのであるが。ガイドさんが、なんとかリムジンバスを手配してくれホテルに移動。移動の道路に車少ない。安全のための法律であるとの事であるが、不思議な国である。ホテル寝るまでもなく朝食であった。朝からチベット医学博物館である蔵医薬文化博物院に行く。なんで、製薬会社が大きな博物館を作るのか疑問。チベットの薬草は儲かるのだらう。中には、618mにも及ぶタンカがある。タンカとは、チベットの歴史、チベット仏教の歴史を極彩色の絵で表したものである。設計に23年間、作画にチベット・蒙古・漢・土族の師匠が4年も費やしたとの事。あまりにも長く途中から疲れてしまう。観光シーズンでないのか中国人ほとんどいない。タンカは、パンチェン・ラマ11世、ダライ・ラマ13世で終わる。私は、隅のほうでチベット人らしき若者に尋ねた。なぜ、ダライ・ラマ14世は描かれてないのかと。無論、カメラに見えないところで。彼は、私と壁の隅でそれは微妙な事と話してくれた。今の中国ではダライ・ラマの写真を持っているだけで問題視される事は知っている。微妙という言葉にチベット人の思いが見えた。私には、彼の顔が寂しそうに見えたのであるが。



西寧タール寺で会った五体投地していた女性たち。マスク、膝あて、手袋は必需品

西寧は青海省の省都で人口205万人の大都市である。漢族、回族、チベット族、モンゴル族など民族混交の都である。高層ビル多く、旧市街の外で以前農地であったと思われる所に、蒲鉾板を立てたような高層住居が並ぶ。コンクリートの林立ビルでどんな思いで暮らしているのだろうか。一部屋100㎡が100万元もするとの事。西寧から郊外26km離れたタール寺に行く。チベット仏教のゲルク派の僧院である。広大な敷地を持つ寺院に驚く。寺の前、中に五体投地する人を多く見かける。若い女性も多い。すごく美しく見えた。いったいどこから来たのだろうか。生活の中の宗教があるのだろうか。上海、北京では見る事が出来ない。回教・イスラム教の寺院の東関清真大寺にも

西寧は青海省の省都で人口205万人の大都市である。漢族、回族、チベット族、モンゴル族など民族混交の都である。高層ビル多く、旧市街の外で以前農地であったと思われる所に、蒲鉾板を立てたような高層住居が並ぶ。コンクリートの林立ビルでどんな思いで暮らしているのだろうか。一部屋100㎡が100万元もするとの事。西寧から郊外26km離れたタール寺に行く。チベット仏教のゲルク派の僧院である。広大な敷地を持つ寺院に驚く。寺の前、中に五体投地する人を多く見かける。若い女性も多い。すごく美しく見えた。いったいどこから来たのだろうか。生活の中の宗教があるのだろうか。上海、北京では見る事が出来ない。回教・イスラム教の寺院の東関清真大寺にも

行った。左右二つのミナレットのある総面積1・7haの大きな寺院である。礼拝日には、一万人以上集まるとの事。チベット仏教の寺そしてイスラム寺院と生活の中に宗教があると再確認する。

西寧から青蔵鉄道で拉薩(ラサ)に向う。総延長1956km、約21時間の列車旅。出発19時30分発。

列車は、一部屋左右二段のベッドの軟臥で808元。飛行機と同じようなチェックがある。朝食は、部屋で食べるが、昼食は食堂車でホテル並みのご馳走が出る。世界で最も高い標高である5072mのタングラ峠を越える。ゆえ、車内は空調管理され酸素ボンベが積まれている。自然保護区のココシリ、チャンタン高原を通る。朝目覚めると窓外は雪の山々、凍てついた高原が広がる。線路の平均海拔は、約4500m 海拔4000m以上の部分が960kmもあり、凍土地帯が550kmもある。こうした厳しい高原に突然駅が現れる。アムト駅は4504mにある。コンクリート造りの新しい町である。しかし、山裾には昔の村落も見える。酸素濃度が50%ぐらいの土地である。線路近くまで放牧の羊も見える。この凍土地帯に高速道路の工事が延々と続く。私の住む岡山市の環状道路の数キロ工事が十年越えても遅々として進まないのに、このチベットの工事は拉薩までの長い工事が同じように続く。この費用はいったい、どこからでているのだろうか。いくら多くの国民がいるにしても、莫大な建設費用の出どころはどこだろうか。鉄道は、カトマンズまで伸びる予定である。世界各地に大きなプロジェクトするお金はどこから出てくるのだろうか。税体系を知りたくなる。

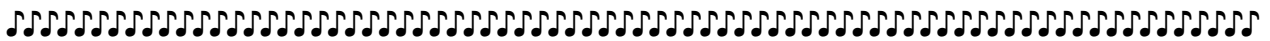
凍土地帯では、地面に直接線路を敷設するのではなくその上に土手を築くか橋梁、高架で造るかである。窓外の道路工事も同様である。凍土ゆえ、温度により不安定になるのを防ぐために熱棒という温度調節用のポールを打ち込む。大気の冷気を地中に入れ地中の熱を放出する仕組みらしい。世界で見た事もない仕組みである。私は、このポールを見て福島第一原発の汚染水防止のための凍土層工事を思った。福島では、凍らなかつたらしいが。

16時45分拉薩駅に着く。駅の外で駅舎を含め撮影禁止であった。駅前には、警察公安らしき三種類の人が見える。機動隊の様な人も。カメラを出す事も怖い。拉薩は、チベット語で神の地を意味ヤルンツァンポ河の支流であるキチュ河の北岸にある標高3650万人のチベット自治区の首府である。ホテルは、旧市街の中程にあった。多くの商店が連なる北京東路にある。夜も人通りが多い。路には、建国を祝うためか赤い旗でいっぱいである。食事の後、大きなマーケットがあると聞き、ガイドさんともども出かけた。私は、すっかりイスラム圏に多くあるバザールとイメージしていたが、立派なビルでデパートとスーパーマーケットの複合であるモール街のようであった。動く歩道状のエスカレーター、ガラスで外が見えるエレベーターという近代的設備がある。無論スマートホン決済である。綺麗な店内に多くの商品が並ぶ。

ところが、商品を見ている間にガイドさんとはぐれてしまった。ホテルまで1キロかもう少しあるのか記憶をたどりながらテレビ塔の方向を頼りにひとり歩いた。持っ

ているものは、ホテルのカードキーのみ。カードにホテル名が書いてあったので、個人商店の人に聞きながらたどり着いた。なんとか帰ってきたのであるが、キー持っていなかったら大変であった。なにせホテルの名前すら覚えていなかったのだから。

チベットに入るには入国許可証が必要になる。規定には、事前に全旅程を旅行会社相談して決めガイド同伴の上、手配した車で移動する事になっている。管理された旅になる。今、私の手元には鴨井信政というかつての同僚の親族が記した「チベット・エベレスト・ネパール」という本がある。彼は、私より一歳上で京大山岳会らしい。1983年から87年にかけてチベットなどの旅をしている。チベットは、多くはバス、ヒッチハイクで移動している。同じルートも歩いている。そしてヒマラヤをザンムーから越えている。今は、チベット地震以後不通である。この本の記述は素敵である。しかし、彼の旅の時間の多くは私にとって仕事で一杯の時、著者の鴨井氏は帰国して日本社会とどう折り合いを付けたのだろうか。このような旅と現実の社会の乖離はあまりにも多い。【つづく】



## 編集後記

\*新型コロナで、なにもかもが狂ってしまったゆえに、「新型コロナ特集」の様相を呈してしまいましたが、仕方がありませんね。

\*いただいた原稿は、丁度24ページ分でしたので、「簡単に編集できました」と事務局長に報告したら、「16ページにしてほしい」とのこと。24ページは確かに作業量が通常の1.5倍。「やはり、コロナ禍中の作業量増大は避けたいところ」と勝手に納得して16ページ化に取りかかったものの、思った以上に難航し、「20ページなら出来ますか？」と途中で打診する始末。しかし、色よい返事はなく、そこから右往左往を繰り返し、やっと16ページにたどり着きました。ただ、小林・佐藤両氏の原稿を前編・後編に分けなければならなかったのは残念ですし、「前編をここで切る？」と思われるのも必定、ご寛恕を請います。

\*返信ハガキの部分をすべて入れながら16ページにするには、文字サイズを下げなければならない計算になり、「でも、それだけは避けたい」と文字数・行数・段組数を色々試しているうちに、文字サイズを下げなくても収まることとなって、ホッと一息。しかし段組をすると、ページ番号が狂い、また新しい迷路に迷い込んで苦闘に次ぐ苦闘。

\*結成40周年記念号の感想「元気いただきました！！」をいただき、感謝です。この記念号は、ここまでの紆余曲折を考えれば、完成即奇跡の感さえあります。責任者を務められた山本和弘氏の、誠実さと底力のなせるわざ、ただただ敬服です。

なお、表紙は武田昭一氏の絵です。好評で「どこの風景？」という質問も多く寄せられました。牛窓の風景だと本人からお返事をいただきました。(清水親義)

